

## 今が旬！マイボーム腺機能不全と霰粒腫の診断と治療Update

福岡 詩麻<sup>1,2,3)</sup>, 有田 玲子<sup>1,4)</sup>, 川島 素子<sup>1,5)</sup>, 白川 理香<sup>1,3,6)</sup>, 松本 玲<sup>1,7)</sup>  
Shima Fukuoka<sup>1,2,3)</sup>

LIME研究会<sup>1)</sup>, 大宮はまだ眼科西口分院<sup>2)</sup>, 東京大<sup>3)</sup>, 伊藤医院<sup>4)</sup>, 久喜かわしま眼科<sup>5)</sup>, 東都文京病院<sup>6)</sup>, レイククリニック<sup>7)</sup>  
LIME Working Group<sup>1)</sup>, Omiya Hamada Eye Cl<sup>2)</sup>, Tokyo Univ<sup>3)</sup>, Itho Cl<sup>4)</sup>, Kuki Kawashima Eye Cl<sup>5)</sup>, Tohto Bunkyo  
Hp<sup>6)</sup>, Ray Cl<sup>7)</sup>

今年の眼科臨床の最大のトピックスのひとつとして、「マイボーム腺機能不全診療ガイドライン」の発行があげられる。患者数は多いのに、これまで診断や治療のコンセンサスがなかったために過小評価されてきたマイボーム腺機能不全 (Meibomian gland dysfunction, 以下MGD) の重要性について見直すときがきた。我々LIME研究会は、MGDに関するインストラクションコースを2013年から毎年開催し、エビデンスのあるMGD診断・治療法について、従来のものから最先端のものまで自験例も含めてUpdateしながら紹介してきた。今回のコースでは、MGD診療ガイドラインに沿ってMGDの診断・治療をわかりやすく整理し、コツやポイントを解説する。また、マイボーム腺関連疾患として国際的にも注目されている「霰粒腫の切らない治療」についてもエビデンスとともに解説する。

具体的には、以下の内容を予定している。

1. MGDの診断のコツ [自覚症状、眼瞼縁・マイバムの観察、マイボグラフィ]
2. MGDの治療戦略 [マイボケア (温罨法・眼瞼清拭)、マイバム圧出、アジスロマイシン点眼、内服、治療機器 (Thermal pulsation system、Intense Pulsed Light (IPL)) ]
3. 切らない霰粒腫治療 [温罨法、眼瞼清拭、ステロイド注射、IPL]

本コースの目標は、一般臨床で眼科医が遭遇することの多い「マイボーム腺関連疾患」である「MGD」と「霰粒腫」に対する適切な診断と適格な治療法選択を可能にすることである。

---

【利益相反公表基準】 該当有

【IC】 取得有

【倫理審査】 承認有